

2021 年度 授業計画(シラバス)

学 科	理学療法士学科		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	機能障害学Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期	教室名	301
担 当 教 員	坂田 年彦	実務経験とその関連資格	理学療法士として医療機関に勤務経験あり。協会活動でスポーツ分野にも携わる。医療心理学や行動分析を主に学び、修士(人間科学)取得。			
《授業科目における学習内容》						
理学療法の対象となる機能障害の病態や治療、回復過程について学ぶ。主に萎縮・拘縮・協調性・意識障害などについて学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
筆記試験(100%)で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
機能障害科学入門						
《授業外における学習方法》						
事前に次の章の概要を読んでおく						
《履修に当たっての留意点》						
授業中、口頭試問を行う						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋の種類、収縮のメカニズムを理解し、説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	筋萎縮に関わる解剖生理学			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋萎縮の定義を理解し、疾患や原因を説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	筋萎縮の定義とメカニズム			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節の動きとメカニズムを理解し、説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	関節可動域制限に関わる解剖生理学			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	関節可動域制限の定義を理解し、疾患や原因を説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	関節可動域制限の定義とメカニズム、治療法			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	中枢神経の伝達メカニズムを理解し、説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく	
		各コマにおける授業予定	中枢神経の解剖生理学			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	麻痺の定義を理解し、疾患や原因を説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	運動麻痺、感覚麻痺の定義とメカニズム		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	筋トーンのメカニズムを理解し、説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	筋トーンに関する解剖生理学		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	痙縮と固縮の定義を理解し、疾患や原因を説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	痙縮と固縮の定義とメカニズム		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	協調性のメカニズムを理解し、説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	協調運動障害に関わる解剖生理学		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	協調運動障害の定義を理解し、疾患や原因を説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	協調運動障害の定義とメカニズム		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	意識や認知のメカニズムを理解し、説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	意識障害に関わる解剖生理学		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	意識障害の定義を理解し、疾患や原因を説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	意識障害の定義とメカニズム		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能の種類とメカニズムを理解し、説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	高次脳機能障害に関わる解剖生理学		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	高次脳機能障害の定義を理解し、疾患や原因を説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	高次脳機能障害の定義とメカニズム		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	機能障害についてこれまでやったことを簡潔に説明できる	教科書	事前に当該章の概要を読んでおく
		各コマにおける授業予定	まとめ		